

申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	教授	氏名	助川 たかね 印
調査研究課題	デザインプロジェクトの国際化・高度化に対応する教育改革のためのデータベース整備					
交付決定額	300,000円					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	助川たかね	造形デザイン学科 教授	経営戦略 都市計画・ デザイン	全体計画管理・実施	
	分担者					
調査研究実績の概要	<p><b>本調査研究の背景</b></p> <p>都市・建築・工業デザインなどデザインプロジェクト分野において、マネジメント環境は高度化・複雑化し、その実現のために国際化（多国籍化）が加速するという連鎖が起きている。本研究の目的は、こうした状況を鑑み、総合的視野と高度な知識・技術・創造性を併せ持った人材の育成に向けた教材用データベースを整備することにある</p> <p>プロジェクトの「高度化」とそれを実現するための「多国籍化」によって、マネジメントに求められる能力も大きく変化している。そのため、実社会で起きている高度化・国際化の課題を教育に還元できるデータへと変換し活用することが急務である。</p> <p><b>東大門デザインプラザ (DDP: Dongdaemun Design Park &amp; Plaza)</b></p> <p>DDPは、イラク出身の世界的女性建築家ザハ・ハディドが創り出す複雑な形状を、いかに韓国で実現するかという難問に挑戦するものだった。国家的プロジェクトとして、東大門という歴史的な場所に、都市開発のモデルとなり世界中の注目を集める斬新なデザインを実現するためには、設計・施工を革新する必要がある、韓国・イラク・英国・米国・日本の専門家が集められ、通常の建築プロジェクトより遥かに複雑な、異分野かつ国際的な組織のマネジメントが要求されることになった。そこでは、技術・経済・政治・文化など、現代のデザインプロジェクトで考えられる限りの課題が凝縮することに着目し、教育資源への活用を目指した。</p> <p><b>研究対象としてのザハ・ハディド</b></p> <p>ザハ・ハディドは2年以上前から研究対象としてきたが、その間、氏への注目度は日本で飛躍的に高まってきた。コンペで勝っても、技術・経済・政治・差別によって実現で</p>					

<p>調査の実績 の概要</p>	<p>きないことが多かったハデイドの作品が、本当に韓国で完成させられるのか、そうであればいかなる方法で可能となるのかが、この課題の主題であった。工期の大幅な遅れはあったが、ソウル市と多国籍チームはこれを完成させたのである。一方、日本では、オリンピックの開催が決定するや、建築作品として日本初となるはずのハデイドの新国立競技場案に対して、従来型の非難が巻き起こっている。このように、ハデイドの建築は、世界のどこで建てられようと、ひとつの建築作品であることを超えて、技術・経済・政治などの問題を解決しない限り実現できない。その意味で、研究対象として最も取り組む価値があり、かつ日本にとって旬の建築家のひとりと言える。</p> <p><b>DDPプロジェクトの進捗状況と体制</b></p> <p>2年近い遅れはあったが、DDPは本年度末の平成26年3月21日に一般公開を迎えた。DDPがソウル市のプロジェクトであったことは幸いである。日本に最も近い大都市であり、時期的にもまさに、その完成に向けた過程で生の情報を得ることができた。さらに米国留学時代の人脈を通じて、本研究課題の遂行に重要となるハデイド建築を支える企業やスタッフを協力者として得られたことで、通常は難しい施工現場での写真撮影、情報提供などが可能となり、本学の将来にも資する人的資産を得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国研究機関研究協力者：延世大学建築学部准教授リー・ガン、ソウル大学建築学部教授ジン・ユン・ファン</li> <li>・企業関係協力者：キム・ソン・サブ（サムスン：コンストラクションマネジャー）、キム・ソン・ウー、シム・ジャイ・ホン、リー・ジョー、パク・ダレム（ゲーリー・テクノロジー：BIMコンサルタント）</li> </ul> <p><b>デザインプロジェクトの国際化・高度化：本研究課題の今後</b></p> <p>DDPはソウル市長や政権の交代、遅延にともなう予算の大幅な超過などを経て完成した。教材向けに抽出された事象は当初の予想を上回る。工期の伸びには、新たな技術・経済・政治・文化の問題とその解決策が必ず併存したからである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国・イラク・英国・米国・日本から成る多国籍プロジェクトにおける異文化間争議とその解決策</li> <li>2. 新ソウル市長が実施した、工期延長と予算膨張の抑制</li> <li>3. 2で効果をあげつつある、行政による大型工事と歳出抑制の革新的新手法</li> <li>4. 複雑系デザインプロジェクト実現のためのBIM (building information management) 手法の新潮流</li> <li>5. DDPを核とする韓国のデザイン国家戦略</li> <li>6. DDPを活用した国家的観光立国戦略</li> <li>7. 東京「新国立競技場」プロジェクトとの比較研究</li> </ol> <p>これら課題抽出により、「建築・意匠」「都市・インフラ計画」「公共・文化政策」「デザインマネジメント」「異文化マネジメント」「観光戦略」など横断的な分野でのケース教材制作に向けた極めて重要かつ独創的な「課題」のストックを持つことができた。今後は、さらにデータ収集・分析を進め、その行方が注目されている東京「新国立競技場」についての進捗状況について、DDPと比較しながらリアルタイムでの課題抽出およびケース教材への転用へとつなげたい。ケース教材として準備中のタイトルは以下の通りであり、国内ケース出版大手2社での刊行を目指している。</p>
<p>成果資料目録 (継続中)</p>	<p>「Dongdaemun Design Park &amp; Plaza (DDP) : (A) Risks and Rewards」</p> <p>「Dongdaemun Design Park &amp; Plaza (DDP) : (B) Who is the Decision-maker?」</p> <p>「Dongdaemun Design Park &amp; Plaza (DDP) : (C) Zaha and Gehry」</p> <p>「新国立競技場：誰のための作品か」</p>